

講義名	中小商業論		
科目区分	学科専門 展開		
担当教員	向山 雅夫		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>「中小商業が流通において果たす役割」について理解することが本講義のテーマである。</p> <p>人々の目は華やかな大規模小売業に向きがちであるが、実は中小小売商業は独自の世界を作っており、その存在は極めて重要である。また中小小売商業から大規模小売商業への成長の可能性もある。商業の世界は奥深いことに気づいてもらう。</p>

到達目標
<p>以下の点について能力を高めること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 流通の仕組みについて理解する 2. 中小商業の存在意義を知る 3. データが意味するものを読み取る 4. 現実から情報を読み取る力を養う

提出課題
<p>講義テーマごとに、講義日の翌週に理解度テストを実施 中小商業についての副読本を一冊指定し、その内容に関してZOOMディスカッションを実施する 上記の副読本理解のために、特別レポートを実施する</p>

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<p>理解度テストは、締め切り翌週に回答のポイントを配布する</p>

評価の基準
<p>理解度テスト（15点*6=90点）、特別レポート15点、ZOOMディスカッションでの発言15点、合計120点満点で評価する。コロナによる状況変化が発生しても、評価方法は変更しない。</p>

履修にあたっての注意・助言他
<p>例年本講義は受講者数限定で、少人数制・完全双方向型（ゼミスタイル）で実施される特別形式の講義である。また評価の視点が他の講義とは全く異なっている。具体的には以下の通りでの実施であった。</p> <p>本講義を履修する学生は、15回全部出席しなければならないし、ただ毎週座っているだけでは単位取得できない 履修可能人数を50名に限定する 学生が座席のまま移動可能な教室（3306予定）を用い、輪になって受講する 各学生の氏名を書いたネームプレートを毎回着用し、S Aが学生の発言度をチェックする（学生の氏名と顔を教員が把握した状況下で講義する） 受講者をチーム分けし、グループ研究を講義中に実施する 受講者には、第3回目の講義日までに自主的に学外の商店街を見学に行ってもらう 外部から専門家の講師を招聘する（2回程度） スマホの電源を切ってもらう 現場取材型の中間レポートを課し、優秀作品を紹介するレポート発表会を開催する。</p> <p>また本講義の他にはない特徴は以下であった。居眠りをすることはできないし、内職もできないし、講義中ずっつとスマホをいじることもできないし、私語もできないし、また講義を適当に欠席することもできない（グループ研究の妨げになるのだ）。講義形式としては、ゼミ・スタイルを採用するが、この場合の意味は、「適当</p>

教科書
.使用しない。

プリント資料及び参考文献
<p>参考文献 ・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫、『21世紀中小企業論（第3版）』、有斐閣アルマ、2013年 ・加藤司・石原武政（編者）、『地域商業の競争構造』、中央経済社、2009年</p>

授業計画
<p>回数 授 業 計 画</p> <p>10月1日 カイダンス&中小商業は必要か？</p> <p>10月8日 中小商業の基礎理論（1）</p> <p>10月29日 理解度テスト</p> <p>10月15日 中小商業の基礎理論（2）</p> <p>10月22日 理解度テスト</p> <p>11月6日 地域コミュニティと中小商業</p> <p>11月12日 理解度テスト</p> <p>11月19日 特別レポート（副読本内容に関する課題）</p> <p>11月26日 副読本に関するZOOMディスカッション</p> <p>12月3日 まちづくりと中小商業</p> <p>12月10日 理解度テスト</p> <p>12月17日 高齢者と中小商業</p> <p>12月24日 理解度テスト</p> <p>1月7日 個店の魅力・専門性と中小商業</p> <p>1月14日 理解度テスト</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p><input type="checkbox"/> ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p><input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p><input type="checkbox"/> ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p>エ：グループワーク</p> <p>オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>予習：本講義の内容に関連する参考文献&副読本を各自読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。</p> <p>復習：毎週の講義内容を現実の動きと照らし合わせることで、講義内容をより深く理解してもらいたい。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>上記「履修に当たっての注意」を参照せよ。</p>

実務経験の有無及び活用
<p>実務経験なし。 この科目を講義するのにあたって、実務経験などは全く役に立たないので不要である。もし私の前職が、魚屋さんであれば役立つだろうけれど。。。</p>

備考
<p>特別レポート&ZOOMディスカッションのために次の副読本を講義開始までに購入し、第9回までに読破しておくこと。約400ページの日本語文庫本を読むだけの日本語能力が求められる。</p> <p>副読本：江上剛『家電の神様』、講談社文庫、2016年、税別740円</p>